

第 192 号

発行日：2015年9月1日

発行人：神 立 秀 明

〒950-2172 新潟市西区内野上新町11810番地3

TEL 代表(025)264-5000

FAX(025)261-4430

在宅ケアセンターゆうばえ内



夕映えの会

住民の声

戦後70年シリーズ

「私のシベリヤ物語」



佐山 熊 一

昭和20年1月12日、徴用先の名古屋造船場に、公用電報が来ました。内野役場からの発信で、1月11日発令、「新発田部隊18日入隊」とありました。その日のうちに荷物をまとめ内野に戻りました。22歳の時でした。

1月28日、いよいよ博多を経由して釜山行きの客船に乗りこみました。船員は「1ヶ月ほど前、港を出るとすぐに一隻やられて、(沈んだ)マストが見えますよ」と言っていました。釜山から北鮮・会寧駅に到着、駅前広場に出ました。その夜は大陸の冬の月光が燦々と地表を照らし駅前広場は凍りついた如く、石ころが影を写し荒涼とした情景でした。翌朝から本物の軍隊生活が始まりました。数カ月の訓練の後、6月下旬わが部

隊はソ満国境警備の任務につくべく移動。「ここで陣地構築の訓練を受けて、そのうちに南方戦線で米軍と戦うのだろう」と誰もが思っていました。しかし大方の予想はずれ、8月9日早晩、ソ連軍は対日参戦、ソ満国境を突破し重戦車を先頭に侵攻を図りました。その知らせはすぐに私たちのもとに届き、全員が緊張で、無言で顔を見合わせました。ソ連軍との戦闘に備えて数日がたったある日、伝令が「アメリカに全面降伏し終戦」と伝えてきました。

凶門でソ連軍から武装解除を受けたのは8月17日のことでした。道端に無造作に銃器を投げ、私たちは丸腰となったのでした。目の前には敵が攻めてきているのに、中隊には弾薬が一人当たり32発しかなく、手榴弾に至っては1発もなかったとは…。

それからはソ連軍の命ずるままに丸腰の行脚。初めて見るソ連軍の戦車が猛スピードで走り去っていく姿を見ると、日本の戦車が小さく貧弱に見えました。数日歩き続けて「延吉収容所」に入りました。ここでの生活は一月位、でも風呂に入ったのは2回だけ。丘陵地・グラススキーで同じく1ヶ月過ぎた後、いよいよ

シベリヤの捕虜収容所に入ったのは昭和20年10月25日でした。

翌日から森林伐採と木の集積作業。これに与えられた食料は黒パン一切のみ。厳冬のシベリヤでの屋外作業は空腹と寒さで辛い思い出ばかりです。約半年ほどの「死ぬ思いの苦労」をした収容所から5月、コルホーズに移動。待っていたのは農作業でした。ジャガ芋の植え付け、キャベツ植え、草を刈ってのサイロづくり、麦刈りなどなど。秋になればジャガ芋の収穫。毎日目が覚めると、腹いっぱい食べたいの思いばかり、いっそのこと食べられない病気にでもなってしまうとも思いました。過酷な労働とわずかに出されるおかゆを、洗う必要のないほどなめつくす空しい一日が終わる。故郷への「一日千秋の思い」は募るばかりでした。

約2年振りに懐かしのわが家へ帰れたのは運が良かったというしかありません。戦後、私は理容業にまい進し、技術を磨きたくさんの弟子達を育てあげました。

それにつけても、無謀な戦争がもつと早く終わっていたら、原爆も、ソ連の対日参戦も、シベリヤ抑留もなかったらうにと、悔やまれてなりません。(内野町在住)

「NPO・夕映えの会」の生活支援サービス をどうぞ、ご利用下さい！

NPO・夕映えの会は二〇〇〇年（平成十二年）に、有償で生活支援サービスを始めました。「支え合って暮らし続ける」夕映えの会ならではの活動です。使い勝手が良いとたくさんの方から喜ばれてきました。あらためて、その良さをQ&Aでお伝えします。

Q1 どんなサービスが受けられるのですか？

答え ・室内のお掃除、洗濯、ゴミ出し・買物（同伴も可）
・草取り家の周囲の整備や掃除

Q2 車を使つてのお出かけサービスは受けられますか？

答え 受けられます。通院や買い物、その他のお出かけに使ってください。定期利用もできます。運転手がマイカーでお願いします。

Q3 車を使った時の利用料は？

答え 他のサービスと同様で、1時間1000円です。その他、ガソリンの実費をいただきます。

Q4 利用したい時はどうしたらいいですか？

答え 遅くともご利用希望日の2日前くらいまでにご連絡ください。（専用電話は090-1431-7996）

Q5 利用料金の支払いはどうすればいいですか

答え 翌月の中旬を目途に請求書・領収書を持っていただきますに上がります。（引落しも可）

Q6 介護保険との関係はどうなりますか？

答え 介護保険の適用はありません。介護認定に関わりなく使えます。

「健やかシニア」してます！

第22回 籐工芸に魅せられて

大河原 志津（新中浜三丁目）



三人の子育てが一段落した頃、籐工芸に出会いました。籐で作られた花籠

やバッグを見て、「何て素敵なんだろう」と一目惚れ！元々パッチワークなどにも興味があり、手掛けてはいましたが、籐工芸にはそれをしのぐ魅力がありました。私は娘を西幼稚園に送り届けては、当時、内野公民館でやられていた「籐教室」に足繁く通いました。さらに、NHK文化センターの「籐工芸教室」にも参加し、技術とともに仲間との皆さんとも交流をすすめてきました。

籐は水に浸しふやかして、柔らかくなつたものを編み込んでいきます。きちんとした図面を書いて編む方もいらつしやいますが、私は「こんな大きさで」くらいで、頭の中に作品のイメージを持ちながら編み込んでいきます。籐のほか、山ブドウやクルミの皮なども使います。

籐の魅力はやはり自然素材を使うだけに、素朴な質感でしょう。ですから、作品の仕上げ

には、できるだけ素材の質感を損なわずに、むしろ素材を引き立たせるように、柿渋やラッカーなどを用いています。

「アトリエ」などというものは特にはありません。子どもたちが居た頃は子どもが傍に、子どもたちが居なくなつてからは主人が傍にいる居間のテーブルで、おしゃべりしながら編んでいます。「無我の境地」というより、何より自然体。出来上がり想像しながら、マイペースで手先を動かしているのが何とも楽しいのです。

作品は主には、工芸仲間と共にギャラリーを借りて展示・即売をおこなっています。そしてギャラリー「浜つばき」（越前浜）に手作りキーキをお届けするのも、私の仕事です。（ボランティアです！）

新潟市美術館の作品展にも出品しますが、私は大物よりどちらかというと小物が好きです。「お人形さんの大河原さんね」と評される方も…。

週1回の体操教室にも通いながら、籐工芸とキーキ作りに、結構忙しい日々です（笑）。

施設から発信コーナー

お出かけしています！

「デイサービスセンターうばえ」では、桜の咲くころのお花見、秋の紅葉見物、気候の良い時期の外食等、年に何回か外出を実施しています。

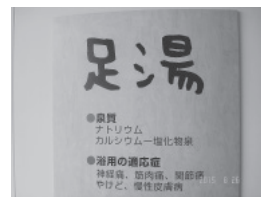
デイサービスの施設内で一日過ごすだけではなく、外に出かけることによって、利用者様もたくさん笑顔を見せて下さいますし、目的地までの道中も利用者様同士、また職員、運転手と

の話も自然と弾んできます。

7月は榎尾の「回転寿司・魚べい」へお寿司を頂きにお出かけし、8月は岩室の「いわむろや」へお出かけ、足湯を堪能した後昼食を食べて帰ってきました。なかなか利用者様全員お出かけというわけにはいきませんが、これからいろいろ計画を考えて、なるべくたくさんの方々に参加していただけるようにしていきたいと思っております。

*施設の見学等随時受付しておりますので、いつでもお気軽にお越しください。

デイサービスセンターうばえ



芦岡さんの

ご飯です〜！

うばえの里 管理栄養士

芦岡実可子

「かぼちゃとハムのチーズ焼き」

かぼちゃにハムのうま味が移って、フランスのよい甘さと塩気になります。

〈材料〉(1人分)

- ・ かぼちゃ 1/6個 (約250g)
- ・ ロースハム 6枚
- ・ パン粉 大さじ2
- ・ 粉チーズ 60g
- ・ オリーブ油 小さじ1
- ・ ドライパセリ 少々

〈作り方〉

- ① かぼちゃは種とわたを除く。横半分に切り、7mm位の厚さのくし形切りにする。ハムは4等分に切る。
- ② 耐熱皿にかぼちゃとハムを交互に並べ、ラップをかけて電子レンジ(600W)で2分加熱する。
- ③ ラップをはずしてパン粉と粉チーズをふり、オリーブ油をかける。
- ④ オープントースター(600W)で約6分焼き、パセリをふる。



リレートーク

濡れずに出来るって、いいじゃない！

葵の園・新潟内野と新潟西透析クリニック
管理者 西山克尚

普通の人と同じ日常生活をしている人の中に、医療や専門的な支援が必要なだけで、生活の場を得ることが少ない人たちがまだまだ多くいます。

特に人工透析を受診している人たちの生活の場は、本当に限られています。そうした人たちに生活できる場を提供したいという思いで、私たち「葵の園・新潟内野」はあります。

施設ご利用に限られますが、人工透析を受けている方達にとっては、家族の力を借りずに通院できます。

また、クリニックスタッフをはじめ、施設内にも専門スタッフを揃え、食事をはじめとした健康管理・医療管理を行っています。

日々、満足のある生活を送っていただけるよう体調の変化や生活状況を見させていただいています。

まだまだ、地域の中には支援の必要な方が多くいます。私共では市内にある当法人グループの介護老人保健施設「葵の園・新潟島」「葵の園・新潟寺尾(建築中)」

との連携を図りながら、老健・通所リハビリテーション・居宅介護支援事業所等の今ある社会資源をフルに活かすべく日々努めていきたいと思っております。

そうすることが、地域の皆様に満足していただける支援につながると考えています。



2015
9
ミイイベントの
お知らせ

■ 5日(土) 踊り
「赤いぐみ」 諸塚幸子様他

■ 7日(月) 新舞踊・民謡
「秋葉すみれ会」 堤イミ子様他

■ 8日(火) マジックショー
佐々木 邦次様

■ 14日(月) 民謡
「梅芳会」の皆様

■ 15日(火) レクダンス
「和の会」の皆様

■ 17日(木) 語り部
「あねさの会」 朝妻サワ様他

■ 25日(金) フラダンス
深田登志様他

■ 26日(土) いっぺこと歌おいね
川崎 和幸様

とき

午後2時30分より
※お抹茶を頂く会は
午後3時15分より

ところ

ケアセンター「ゆうばえ」
デイサービスセンター
地域の皆さんのご来所をお待ちしています。
ご一緒に楽しみましょう。

職員募集

- ・介護職員(勤務時間は相談可。)
 - ・看護師(日中のみ)
 - ・主任介護支援専門員
 - ・生活相談員
- お気軽にご一報ください。

(お問い合わせ)

TEL 264-5000
渡辺まで



投稿短歌

山伏が
行を積みし 岩山を
ロープウエーで
山を満喫

杉の木に
絡まり咲きし
黄のラップ
ノーゼンカズラ
夏を飾るや

南 繁栄様より

施設見学随時受付中!

在宅ケアセンターゆうばえ・ゆうばえの里・ゆうばえの家では、施設に興味がある方、建物の中をのぞいてみたい方などの見学を随時受け付けております。

直接各施設にお越しいただくか、下記にお電話をいただければ対応させていただきます。介護施設とはどんなものか、ぜひ一度見学におこしください!

社会福祉法人ゆうえい会 法人本部 TEL (025) 264-5000

連絡先一覧

夕映えの会
お弁当配食については
★配食事業部へ
090-1654-9821
生活支援については
★生活支援部へ
090-1431-7996
お気軽にご連絡ください。



生活支援、配食、運転
ボランティア募集

社会福祉法人ゆうえい会
在宅ケアセンターゆうばえ
(代)025-264-5000
ゆうばえの里
ケアハウス 025-264-5715
ショートステイ 025-264-5730
ゆうばえの家 025-264-0808

★介護のご相談はケアプランへ
025-264-5701

編集後記

編集子の身内には三人のシベリヤ抑留者がいました。その内二人は既に故人で、残った一人が佐山熊一さんです。戦前内野には五軒のお風呂屋があり、その一軒は一勘七風呂でした。熊一さんは新潟で床屋の弟子修業中に徴用で名古屋へ、家業の床屋と風呂屋は両親がやっていたとのこと。それから熊一さんの苦勞は、一面にある通り、戦後復員して風呂屋はたまたみ、床屋業一本で生き通してきました。92歳にして今も現役です。書道は趣味の域をはるかに超える有段者。油絵も描きます。「私のシベリヤ物語」は平成五年、82歳の時に書き上げた約六万字に及ぶ「戦争備忘録」です。反戦論者でない熊一さんは多くは語りませんが、戦争の意味を深く伝えていきます。(M記)